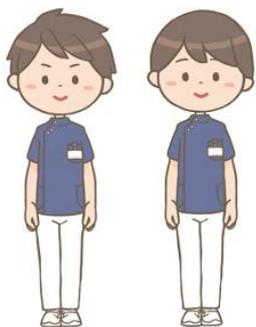


【臨床工学技士の紹介】



渡慶次 一臣

崎濱 友喜

臨床工学技士は医療職の中では新しく、1987年に医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格として制定されました。他の医療職と同様に、臨床工学技士になるためには沖縄県や本土の大学・専門学校といった養成所を卒業し、国家試験に合格する事で免許を取得することができます。病院では、C E さんや M E さんの愛称で呼ばれる事が多く、医師や看護師、他のメディカルスタッフと共に医療チームの一員として、治療や検査をサポートしています。

病院には多くの医療機器を使用して検査や治療を行なっています。厚生労働省の新医療機器の薬事承認件数は年間約 30 件で今後も医療機器は増加し、さらに高度な機器が誕生すると考えられています。臨床工学技士は医療機器のスペシャリストとして、点検や修理の他に、故障原因の解明や、医師や他のメディカルスタッフへの機器取り扱いの説明などを行なっています。

また、臨床とは医療現場で実際患者への治療や診察をすることを指し、臨床工学技士も多くの患者の治療に関わっています。例えば、人工透析治療を受けている患者さんは全国に約 3 4 万人で、臨床工学技士が携わることの多い治療の一つです。医師の指示の元、透析装置の操作する事、老廃物を血液中から除去するために必要な太い針を血管に刺す事など、医療の専門技術が必要となります。血液透析以外でも、心臓手術中に心臓の機能を代行する人工心肺装置や、人工呼吸器などの生命維持管理装置の操作、心臓カテーテル室での心臓機能検査機器や治療機器の操作など多くの医療機器を扱います。



2020年に新型コロナの患者が日本で発生してから、人工呼吸器不足や E C M O (エクモ) と言った言葉を耳にする機会があったと思います。肺の機能が低下する疾患では、重



度になると人工呼吸器という呼吸を補助する機器を装着する必要が出てきます。さらに重症化が進むと肺の代替え機能有するECMO（エクモ）を使用し治療する事が必要です。機器を扱うスペシャリストとして、専門知識のある臨床工学技士は、医師や他の医療スタッフと共に治療に関わり、チーム医療の一員として全国でも多くの

スタッフが活躍しています。

入院施設のある大きな病院以外にも、透析を専門に行なっているクリニックや、在宅医療で地域医療に貢献している方、医療機器の開発や製造、販売に関わる仕事で医療をサポートしている方もいます。国家資格なので、取得は容易ではありませんが、やり甲斐のある仕事です。